



巻頭言

21世紀への準備

理事長 津 和 秀 夫
(大阪大学名誉教授)

二見ヶ浦の夫婦岩のほとりに立てば、東天を紅に染めて、太平洋から旭日が昇ります。昭和61年の初日の出です。皆さん、おめでとうございます。大世紀、21世紀は刻々に近付いて来ました。21世紀への準備を急がなくてはなりません。

20世紀は戦乱の時代でありました。第一次大戦と第二次大戦と、未だに戦争が続いています。我が国においては、日露戦争に始まって、昭和20年の敗戦に至るまで、戦乱に次ぐ戦乱でありました。

日本人は精神文明の花咲く東洋に育ぐまれてきました。そして風光明媚な、世界の特等地の島国に住んで、永く平和を楽しんでいました。日本人は世界一の平和愛好国民と思います。

それが科学技術にたけた西洋人が、科学を戦争に利用して、我が国に臨んだのであります。我が国の対応は水際立っていました。維新の革命を始め、アジア解放のために、百年戦争を雄々しく戦い抜きました。そして日本は敗戦を迎えましたが、アジア・アフリカの国々は続々と独立しました。百年戦争の目的は叶ったのです。

あまつさえ、西洋人は今悩んでおります。それは植民地人口が大量に、都市に流入したからです。ロンドン・パリ・ニューヨークには精彩がありません。大西洋文明の凋落です。代って太平洋文明が興ります。その中心は日本です。21世紀は日本の時代という声が聞かれます。

21世紀は物心一如の時代と言われます。物質文明と精神文明がバランスをとって発達するときです。日本は東洋にあって、精神的土壌に育てられてきました。明治維新以来100年間余り、西洋人について科学を、物質文明を、一生懸命に学びました。科学の分野では西洋人と比肩するように育ちました。日本人ほどの科学と精神文明の理解者はありません。

21世紀で活躍するのは、日本以外には考えられません。21世紀は日本の時代という声は極く自然の声であります。後15年で大世紀、21世紀がきます。日本人はその準備に忙がしく立ち働らかねばなりません。私は次の2点を強調したいと思います。

第1の問題は資源ということです。地球の資源は有限です。「20世紀の人達は僕たちの分を食いつぶしてしもうた」と、後世の人達から言われぬようにしようじゃないですか。それには世界の人達と手を握って、科学的解決をしなくてはなりません。21世紀を迎える準備に当たって、このことは急ぎます。

第2の問題は国民精神の作興ということになります。日本人は世界で一番ぜいたくです。ぜいたくになれると優柔不断になります。40年前は、日本人は質実剛健でした。そして勇気を持っていました。40年の歳月が、日本人を軟弱にしたのです。

21世紀は日本と日本人の活躍の場です。清らかな心をもって、大世紀を待ちましょう。